

在モンリオール総管轄地域内の概況(2026 年 9 月)

(公開情報に基づくもの)

1 政治

(1) ケベック(QC)州

・9 月 9 日、ブロック・ケペコワ(BQ、連邦政党)のブランシェ党首は、同党議員団を率いて台湾を訪問。頼台湾總統との意見交換、金門の軍事関連施設視察等を実施。BQ 議員団による台湾の単独訪問は初めて。

・9 月 16 日、州上級裁判所は、州選挙管理委員会に対し、10 月 5 日の州選挙投票日直前に郵送する有権者向け書類を仏英 2 言語で作成することを命じる。現政権が仏語保護強化に関する「州法 96」に則り、同委員会が郵送済みの別の書類は仏語のみとなっており(英語の情報は QR コードで案内)、英語話者団体他から投票権侵害であるとして非難されていた。

(・10 月 5 日、州総選挙実施の結果、8 年ぶりに政権交代。ケベック党(PQ)は過半数(64 議席)を下回り 59 議席を獲得し少数与党となる。PQ 政権は 12 年ぶり。サンピエール＝プラモンドン(Paul St-Pierre Plamondon)PQ 党首は、トランプ米大統領の任期が満了する 2029 年以降にケベック独立是非を問う住民投票実施を約束している。州自由党(PLQ)はモンリオール島の周辺を中心に議席を取り戻し野党第一党の座を強化。州保守党(PCQ)はケベック地域を中心に躍進。ケベック連帯(QS)は 2 議席減らすも存在感を維持。前政権のケベック未来連合(CAQ)はフレシェット首相自身も敗北し獲得議席ゼロとなった(フレシェット氏は 10 月 6 日に党首辞任と政界引退を発表)。各政党の獲得議席数は以下の通り(カッコ内は改選前比): PQ59(+52)、PLQ40(+22)、PCQ19(+18)、QS9(-2)、CAQ0(-79)(総数 127(+2))。)

(2) ニューファンドランド・ラブラドール(NL)州

・9 月 9 日、連邦王室・先住民関係・北部関係省は、イヌイット認定を求めているラブラドールの NunatuKavut コミュニティ評議会(NCC)との協議を打ち切り。NCC はラブラドールの中部と南部に住む 6000 人からなるコミュニティで、ラブラドールのイヌイット自治政府 Nunatsiavut、イヌイットの全国組織、イヌ・ファーストネーションからは先住民と認められていない。

(3) プリンスエドワードアイランド(PEI)州

・9 月 2 日、内閣改造実施。1 人が初入閣し閣僚数は 11 人から 12 人に増加。

・9 月 21 日、ランツ州首相は、州規制控訴委員会(IRAC)解体を発表。時代に合ったより透明性の高い組織とすることを目指し、エネルギーと公益事業に特化した機関と、土地利用と不服申立を扱う機関という 2 つの専門機関を設立するための法案を今秋議会に提出する。

・9 月 28 日、ランツ州首相は、沿海州(PEI,NS,NB)首相で協議し、3 州のうち 1 州が夏と冬の時間の切り替えを廃止するのであれば残り 2 州もそれにならうべしと意見が一致した、時間の切り替え廃止是非について PEI 州民の意見聴取を実施すると発言。マニトバ以西の州・準州が最近相次いで冬時間を廃止した。

(4) ノバスコシア(NS)州

・9 月 2 日、5 月に初入閣したマクラウド州エネルギー大臣が辞任。政界入り前に発信したラップの歌詞が女性蔑視であるとして物議をかもしていた。エネルギーポートフォリオはヒューストン州首相が再び兼任する。

(5) ニューブランズウィック(NB)州

・9 月 28 日、州緑の党は、退任するクーン党首の後任候補を募集した結果、現州議会議員のミットン氏が唯一の候補となったと発表。12 月の党大会で正式に選出予定。

2 各州世論調査結果

(1) 州政党支持率(QC 州)

- ・レジェ(Leger Marketing)調べ、9 月 4～6 日: ケベック党(PQ)29%、与党ケベック未来連合(CAQ)23%、自由党(PLQ)22%、ケベック保守党(PCQ)15%、ケベック連帯(QS)10%、その他 1%
- ・シノプシス(Synopsis)調べ、9 月 10～13 日: PQ28%, CAQ24%, PLQ22%, PCQ14%, QS11%, その他 1%
- ・ナノス(Nanos)調べ、9 月 12～14 日: PQ28%, PLQ24%, CAQ22%, PCQ16%, QS9%, その他 2%
- ・パラス(Pallas)調べ、9 月 19 日: PQ28%, PLQ22%, CAQ22%, PCQ16%, QS11%, その他 1%
- ・レジェ調べ、9 月 25～27 日: PQ30%, PLQ26%, PCQ18%, CAQ16%, QS9%, その他 1%

(2) ケベックの独立(QC 州)

レジェ(Leger Marketing)調べ、9 月 4～6 日: 賛成 30%、反対 70%

3 経済

(1) QC 州

- ・9 月 1 日、ボンバルディア(本社モントリオール)は、オンタリオ(ON)州ミシサガにある三菱重工業の子会社 MHI Canada Aerospace (MHICA)を買収(金額非公開)。MHICA はボンバルディアのグローバル 5500、6500、チャレンジャー3500 プログラムの翼や胴体部分の組み立て、飛行制御装置の取り付け等を請け負っていた。約 750 人の MHICA 従業員がボンバルディア傘下に入る。
- ・9 月 3 日、仏鉄道車両製造大手アルストムは、VIA 鉄道向け新型旅客鉄道車両 313 両の製造を 47 億加ドルで連邦政府より受注。VIA 史上最大の投資。設計、エンジニアリング活動はサン＝ブリュノ＝ド＝モンタルヴィル(QC)、車体製造はラポカティエール(QC)、最終組立はサンダーベイ(ON)のアルストム各拠点で行われる。
- ・9 月 9 日、州政府は、米ヘリコプター製造企業ベル・テキストロンに対して 2005 年に実施した融資利息 1860 万加ドルの返済を免除(同社は融資 5660 万加ドルも未返済)。加米間貿易戦争のさなか、フレシェット政権は同社の米国移転を懸念、利息返済免除の見返りとして、同社が 2037 年までミラベルに留まり 1600 人の雇用を維持する保証を得たとの報道。同社ミラベル拠点は 1986 年から存在し、スバルと共同開発した「SUBARU Bell 412EPX」等を製造。
- ・9 月 21 日、フライトシミュレーター製造の CAE(本社モントリオール)は、米空軍乗組員の訓練を継続する契約を 3 億ドルで受注。トランプ米政権による、政府調達からカナダ企業を排除するための大統領令が署名されたばかり。

(2) NL 州

- ・9 月 17 日、州議会は、政府が 8 月に締結したチャーチルフォールズ覚書の是非を問う 4 日間の特別討論

を実施した結果、21 対 18 の僅差で可決（議長は投票せず）。与党進歩保守党(PC)議員全員と無所属議員 1 人が賛成し、野党の自由党と NDP 議員全員ならびに討論開始当日に PC を離党し無所属議員となったラブラドル選出のラッセル氏が反対票を投じた。州自由党は、2024 年に前自由党政権が締結した覚書と比べ、チャーチルフォールズの電力価格設定が 50 年間(2027～2077 年)の契約期間中に再交渉の余地がないこと、市場価格ではなくインフレに連動していること、QC 州が調達する他の電力源よりも安いこと等を問題視。またガルアイランド(新規建設予定)の電力価格が時間の経過とともに下がることにも反対。他方ラブラドルのイヌ・ファーストネーションは、2024 年覚書よりもイヌへの利益が少ないと主張し、新覚書に賛成しないよう州議会に呼びかけていた。ウェイカム州首相は、今後イヌの同意を求め同コミュニティと協議を行うと表明。なおウェイカム氏は、QC 州との最終合意締結を急ぐため、公約としていた覚書の是非を問う住民投票実施を断念し、代わりに今回の特別討論を実施した。

(3) PEI 州

・9 月 25 日、ランツ州首相は、2027 年 1 月 31 日までガソリンとディーゼル燃料への課税を停止すると発表。同措置により、ガソリン価格は 1 リットルあたり 8.47 セント、ディーゼル価格は 1 リットルあたり 14.15 セント値下げされるとのこと。税金は 2027 年 2 月 1 日から 2027 年 3 月 31 日まで現行税率の 50%で課税され、その後全額に戻る予定。

(4) NS 州

・9 月 15 日、州政府は、大企業等電力大口顧客による再生可能エネルギー利用支援プログラム「グリーンチョイス」向けに、陸上風力発電プロジェクトの新たな公募を開始。州は 2030 年までに電力網の 80%を再生可能エネルギーでまかなうという法定目標を掲げる。州エネルギー省担当者によると、今回の電力調達により目標は達成可能であり、風力由来電力は石炭由来電力よりも安い。

(5) NB 州

・9 月 22 日、NB パワーは、ポワンスプロー原発で発生した漏水から約 200 リットルの重水を回収したと発表。10 日に監視システムが原子炉建屋内でトリチウム濃度の上昇を検知、11 日に運転停止、14 日に大量の水漏れを確認した。市民、従業員、環境への影響や安全上のリスクはなかったとのこと。26 日に運転再開。

(了)